

28 琉球・沖縄の歴史教育の充実 (小・中・高・特支)

－ 地域の歴史・文化を尊重する心を育む －



琉球・沖縄の歴史教育に取り組むことは、次代を担う児童生徒が、琉球・沖縄の歴史について理解を深め、郷土の歴史や文化に誇りを持ち、社会への参画や自己実現に資する教育的活動として重要な意義を持つ。

学校教育における琉球・沖縄の歴史教育においては、小中学校から高等学校までの学習を通して、発達段階に応じた教育課程の効果的な推進と学習指導の工夫・改善を踏まえた学習活動の充実を図ることが重要である。

ここがポイント(取組の重点)

- 学習指導要領を踏まえ、琉球・沖縄の歴史を取り扱うことが必要
- ◇歴史的事象の理解・考察を踏まえ、現代的課題の解決を構想・議論するための体系的な学習を推進

(1) 教科・科目を通じた体系的な学習指導の充実

- ① 小学校においては、社会科の学習を通して、身近な地域の伝統文化や地域の発展に尽くした先人などの働きや、児童の身近な地域の歴史上の出来事について、問題を追究したり解決したりする活動を通して、琉球・沖縄の歴史的事象について考えさせるような指導の工夫を図る。
- ② 中学校においては、歴史的分野の学習を通して、世界の歴史や我が国の歴史の流れを背景に、琉球・沖縄の歴史的事象について多面的・多角的に考察したり、複数の意見や立場を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり議論したりする活動を通して、琉球・沖縄の歴史的事象について考えさせるような指導の工夫を図る。
- ③ 高等学校においては、地理歴史科の科目「歴史総合」の学習を通して、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成にかかわる近現代の琉球・沖縄の歴史を理解するとともに、その意味や意義、特色について、既習の概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想・議論したりできるような指導の工夫を図る。
- ④ 特別支援学校においては、児童生徒の障害の状態・特性等や学校の実態に即した教育課程の編成に基づき、小学校、中学校又は高等学校に準じて、個に応じた学習指導の工夫を図る。

(2) 児童生徒が琉球・沖縄の歴史に関心を持ち、主体的に考えることのできる授業改善の推進

- ① 研修や学習指導案・教材等の周知を通して、教員の指導力の向上の取組を推進する。
- ② 関係機関と連携し、デジタル教材等の効果的な活用を推進する。
- ③ 家庭や地域、関係機関と連携し、外部講師を活用した講話の実施や地域巡検などの体験活動を推進する。

■関連資料■

- ◎『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』
- ◎『中学校学習指導要領解説 社会編』
- ◎『小学校学習指導要領解説 社会編』
- ◎『琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ』

<https://ryuoki-archive.jp>

文部科学省 平成30年
文部科学省 平成29年
文部科学省 平成29年
沖縄県教育委員会



- ◎『琉球・沖縄の歴史～小中学校・高校 学びのつながり～』

http://kyouka.edu-c.open.ed.jp/Connections_in_Learning.pdf

沖縄県立総合教育センター

